



横浜F・マリノス

【地域を応援】ホームタウン テイクアウトマップ 1/2



Story

横浜F・マリノスのホームタウンである横浜市・横須賀市・大和市を中心に600を超えるテイクアウト・デリバリー可能な店の情報が集まったこの「ホームタウンテイクアウトマップ」はまさに「ホームタウンのチカラ」で創り上げられたものだ。行政、商店街、サポーター、企業……。それぞれが情報を持ち寄ることでマップは充実していき、価値を高めていった。緊急事態宣言下でお客様の足が遠のいている飲食店、外出が制限されている地域の人々を結ぶことを目的として、それぞれがアクションを起こした結果がこのマップである。

緊急事態宣言真ただ中の4月14日、「この状況でクラブがホームタウンに対してできることはないか」と企画がスタート。サポーターの協力もあり、そこからわずか1週間後の4月21日にはローンチさせた。正直、「テイクアウトマップ」というもの自体は既に様々な団体が展開しており決して真新しいものではなかった。しかし我々が目指したものは、「Jリーグクラブの発信力」を使っただけの「多くの人に知ってもらえる・使ってもらえるマップ」、そしてホームタウンの様々な団体やサポーターを巻き込むことで「ローンチしてからでも有機的に進化し続けるマップ」であり、結果として複数のローカルメディアへ掲載され、ローンチ時には200に満たなかった掲載店舗が1か月足らずで500を超えるまでになった。

運用自体は非常にシンプル。ソーシャル上でハッシュタグを使って情報を広く募集する一方で、既にテイクアウト実施店舗の

リストを持っている団体にアタックし情報を提供してもらい、クラブの管理リストに追加、Google マップに都度あげていく、というものである。掲載作業自体は機械的なものなのだが、掲載店舗の中には普段クラブのポスターを掲出していただいている店舗も多く、そういった店舗の情報を提供してくれるサポーターの投稿には単なる情報提供を越えた、「地域とのつながり」も感じることができた。

テイクアウトマップが公開されてしばらくすると、「F・マリノス テイクアウトマップに載っているお店に行ってみた」という声や「テイクアウトマップを見たお客さんが何組かきた」というお店の声、そして「自分たちが持っている店舗リストと相互情報提供しませんか」という団体からの声も聞かれるようになってきて、この活動で「地域が動いている」という実感も得られるようになった。それと同時に、サポーターをはじめとした多くの人々のチカラのすごさ、そして多くの人と手を取り合うことでより大きなチカラが生み出せること、旗を振ることでそこに人は集うこと、を感じることができた。

この文章を書いている2021年1月28日現在、神奈川県は緊急事態宣言下に置かれている。このマップが厳しい状況にある飲食店の皆さんのチカラになればと思う一方で、今後このマップが大きく活用されるようなことのないホームタウンになることを切に願う。

活動詳細情報はこちら


<https://www.f-marinos.com/news/category/4/6967>
<https://www.google.com/maps/d/viewer?hl=ja&mid=1C1iGeWJHsN4vylUuJ7-PxOidQhthwY6C&ll=35.40730888913592%2C139.58236075000002&z=11>



横浜F・マリノス

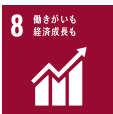
【地域を応援】ホームタウン テイクアウトマップ 2/2



活動場所

オンライン上

カテゴリー(SDGs)／取り組みテーマ



協働者

企業、NPO、住民、行政、サポーター

協働者名

NPO 法人ハマトラ・横浜フットボールネットワーク、
港北区役所、港北区商店街連合会、
都筑区商店街連合会、青葉区商店街連合会、
南林間ちよい呑みフェスティバル実行委員会、
はまれぼ、GREEN SMILE - ぐりすま -

